

# あとはゆっくり休んで

渡辺さんらと一緒に沖縄旅行に出掛けた時の  
はま子さん＝2010年12月



## 鎮魂の祈り

3.11から4年

料理も洗濯も何もかにも初めてで。野菜を買っても何をどう作ればいいのか、洗濯するにも洗剤の選び方が分かんなくてない。洗濯物の干し方も、最初はくちやくちやになっちゃって。でも、だいたい慣れてきた。こんなに自分でできるなら、もっと早く手伝ってやればよかったなあって思うね。やればできるんだもんね。

2011(平成23)年7月、

川俣町山木屋地区から避難して

いた渡辺幹夫さん(64)の妻はま

子さん＝当時(58)＝は自宅庭先

の大きな柳の木の下で焼身自殺

した。同地区が計画的避難区域

## 川俣・山木屋の渡辺さん

に指定後、当時の避難先だった  
福島市のアパートから夫婦で初  
めて一時帰宅した翌朝だった。  
故の因果関係を認め、東電に賠  
償を命じた。

見つけた時は言葉が出な  
かったね。全然そんなこと  
考えてなかったしね。家の  
中を捜していないから、何  
となく下の方に下りていっ  
たんだよね。そしたら変わ  
り果てた姿になってた。

最初はやっぱり、東電を恨  
んだない。でも、裁判が終  
わったら気が抜けたといっ  
か、もう恨みの気持ちも消  
えたね。

ただの自殺者で終わらせたく  
ない。12年5月、東京電力に  
損害賠償を求めて福島地裁に訴  
えを起こした。同地裁は14年8  
月、はま子さんの自殺と原発事  
故の因果関係を認め、東電に賠  
償を命じた。

現在は川俣町内の仮設住宅に  
1人で暮らす。4畳半の部屋に  
は時々、仲間が遊びに訪れ、手料  
理を振る舞っている。好物だが、  
はま子さんが苦手で作ってもら  
えなかった、もつ煮やニラレバ

1が今では得意料理だ。週1回  
は自宅に戻っているが、自宅の  
仏壇の隣に置いていた、はま子  
さんの遺影はもうしまった。



遺影は裁判終わった時点  
でしまっちゃったの。裁判  
やっている時は、そっちこ  
ち連れ回して歩いてたか  
ら、あとはもう何も心配し  
ないでゆっくり休んでほし  
くて。自分自身が忘れるた  
めでもあるし。それでも、  
ふと思いつく時、そりゃ、  
あるよ。

(今泉桃佳)



東日本大震災から間もなく丸  
4年。県内の震災による死者は、  
地震や津波、そして避難生活に  
伴う震災関連死で約3700人  
となった。かけがえのない人を  
亡くした遺族は、忘れること  
できない「あの日」を思い、鎮  
魂の祈りをささげる。

自宅の台所に立つ渡辺さん。「今では料理も  
だいぶん慣れた」と話す＝川俣町山木屋

